

看護部長 就任のご挨拶

2014年に制定された「医療介護総合確保推進法」の中に「地域包括ケアシステム」の構築が謳われています。

その「地域包括ケアシステム」の中の「回復期リハビリテーション」の役割を担っている琵琶湖中央病院にこの度、看護部長として就任いたしました。

地域包括ケアシステムでいうところの「地域」とは、自宅より概ね 30 分以内に、必要なサービスが提供される日常生活圏域を示しています。私はこの琵琶湖中央病院を含む「地域」で育ち、毎日琵琶湖を眺めながら通学していました。この慣れ親しんだ「地域」の中で仕事ができるチャンスをいただけたことに心から感謝しています。

私たち看護部は、少子高齢化社会の今、患者さんとその家族に寄り添った、より良い看護・介護サービスを提供し、住み慣れた「地域」で、安心して、その人らしく生活ができるように、他の多くの職種と連携しながら、様々なニーズに応えられることを目指しています。

そのため、「eラーニング」による教育を導入し、看護師・介護士の知識・技術の向上を目指して教育の充実を図り、日々、人材育成に取り組んでいます。

私は、ナイチンゲールの「看護は芸術である」という言葉のとおり、看護は看護師の手によって行われる『芸術』だと思います。日々の看護は同じように見えても、その場面は一回限りであり、その一つ一つの看護を、知識や技術だけではなく、いかに心を込めて行えるかが大切だと考えています。看護師は、24 時間継続して患者さんに寄り添う一番身近な存在です。

機能訓練室で行われるリハビリの時間だけがリハビリテーションではなく、入院生活全般がリハビリテーションであり、「回復期リハビリテーション看護」を継続して行うことが当院看護師の「看護」であると考えています。

さらに看護の場は病院の中だけでなく、地域全体へと広がります。在宅での「その人らしさ」を大切にして、住み慣れた地域で安心して療養生活が継続できるよう、個々の患者さんに、最適なトータルマネジメントを行っていかねればなりません。そのためには入院中から、院内・院外を通じた「地域」との連携を密接に行うことが、非常に重要です。

このような連携を円滑に行うためのコミュニケーション力を養う環境づくりも、今後の課題であると考えています。

また、患者さんに安全で安心・安楽な看護を提供するためには、看護職員がいきいきとやりがいを感じながら看護ができる組織を作ることでも大切です。自分の看護観をしっかりと持ち、自ら考え判断し、行動できる、自律した看護師の育成を目指し、私自身も共に成長していきたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう
よろしくお願ひいたします。

看護部長 赤尾 順子



今年の新入職員は 25 名

今年度も琵琶湖中央病院に新しい仲間が加わりました。医師、看護師、セラピスト等、職種は様々ですが、精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。